

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記入）】			
事業所番号	2272300571		
法人名	医療法人財団百葉の会		
事業所名	グループホームおとなりさん		
所在地	静岡県富士市五貫島160-1		
自己評価作成日	令和4年12月25日	評価結果市町村受理日	令和5年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSyocd=2272300571-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和4年1月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎月季節の湯を取り入れている。
入浴は楽しみの1つであるので、なるべく楽しんで入れるように季節の湯を行っています、菖蒲湯では、菖蒲を浮かべ、みかん湯や柚子湯では本当のみかんや柚子を湯に浮かべて香りや効能を楽しんでいます。季節湯を初めてから、お湯に浸かる時間が長くなる利用者もいらっ
しやいます。
管理された畑で四季折々採れたての野菜が食べられます。
隣接の老人保健施設の職員と共に、畑を管理しており四季に合わせた野菜を育てています。
収穫は職員と利用者で行って採れたての野菜を食卓に並びます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

天気の良い日は散歩を励行しており、小鳥も舞い降りる庭園を一つの絵画のように眺めることができる大開口の窓も日々の暮らしを彩っています。他にも初夏には梅干しを漬けたり、真夏には花火をクラフトで製作、秋には干し柿づくりと、季節を取り入れることに多面的に取り組んでいます。最も力を入れているのが入浴で、菖蒲湯といった時節風呂のほかに桜の湯、どくだみ湯、みかん湯、もも湯、菊湯と毎月変わり湯を提供しており、一つの行事として話材も増え、利用者の笑顔に結ばれています。またコロナ禍なものの、衛生管理を整えて看護学生や高校生の実習を受入れ、地域貢献にも余念がありません。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の事業計画を基に施設事業計画を作成しています。事業所の強みと弱みを活かして施設目標とし、事業目標の説明後に個人目標へと繋げています。	事業所目標は、法人と事業所の年度における方針(事業計画)に沿って系統だてられています。それらの説明を受け、理解したうえ個人目標がつくられており、「一丸となって」理念を推進できています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で中止を余儀なくされているが、地域の学生がボランティアに来てくださいます。また、手紙を出すなどで交流を図っています。	衛生管理を整えて看護学生や高校生の実習を受入れ、地域貢献にも余念がありません。高校生に実践的な介護を教えるため、職員も事前勉強会に取組んだ点は、事業所としても有益な実績となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	本年度は、コロナ対策をした上で富士宮東高校の実習生、静岡県立看護学生、富士市立看護学生の受け入れを行なった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で、集まっの運営推進会議の開催は中止とさせていただいております。書面での開催を行い、意見をいただくようにしております。	市役所、区長、民生委員、家族代表とメンバーを揃えた運営推進会議でしたが、コロナ禍で集会はできず、2ヶ月分の運営内容をまとめたものを届ける書面開催となっていますが、意見はもらえるよう工夫があります。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	富士市の職員と連携を図り意見をいただいている。集団指導に参加しながらも、分からない不明点の関しては直接問い合わせを行っている。	オンラインなものの静岡県と富士市の集団指導に出席して、情報を整備しています。また富士市からはアルコール、県からはガウンやPCR検査キッドが届いており、大切に使っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の指針を設けている。 身体拘束委員を中心に、現状の把握、対策の話し合いを行いスタッフに周知を行っている。	身体拘束委員会を3ヶ月に1度開催しています。委員1名が隣りの介護老人保健施設開催の委員会にも参加しており、不適切ケアとリスクのバランスを検討するなど、そこでの協議内容も反映させることで学習の厚みが増しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	同法人内でおきた虐待の事例を元に、なぜ起きてしまったのかを職員で考えて施設では起こさないよう防止に努めている。また、職員同士も声かけを行い防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年度は研修等の参加を行っていない。 現在保佐人を利用している方が1名居ます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、変更時は必ず説明を行い理解と納得を頂いている。事項に関することはその都度説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを毎年実施している。 アンケートの結果は改善内容を掲示し、家族へフィードバックしている。また、ご意見箱の設置を行っている。	家族には居室担当者から本人の写真入りの便りを毎月送っています。また家族アンケートを法人が毎年実施していて、本年度は「ケアへの満足100%」等、嬉しくなる内容満載でした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見等は昼礼等で頂き、検討を行っている。 定期面談や適時面談等を実施している。	普段の意見交換も活発ですが、「温タオルを入れる発泡スチロール持ってきました」「〇〇様、湯飲みが欠けました。黄色の湯飲みに変っています」といった記録からは職員の主体性が伝わります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	リフレッシュ休暇、ハッピー休暇制度があり、各々休みを取得している。また、時間外の削減も引き続き取り組みを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望を聞き年間計画を作成し、法人内研修、外部研修、事業所内の勉強会に参加してスキルアップを行っている。特に外部の研修には積極的な参加を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加して情報共有、交流を図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人、ご家族と面談を行い話を伺っている。利用事業者から情報はいただいている。生活習慣を大切にできるように職員間で共有し関係を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族の心配事、困っている事、要望などをしっかり聴く様に心がけている。入居後も電話等で様子をしっかりお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の面談を2人で対応して、必要な支援が見極められるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の生活歴や習慣、経験を活かし、一緒に家事を行う、会話から昔の様子などを伺う等を行っている。また、お客様同士話しやすいように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡にて日中に様子を伝えながら、昔のことを伺い、ご家族と一緒に考え協力してもらうように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人が手紙や電話で、ご家族や知人の方とやりとりをできるように支援を行っている。ZOOMも活用して遠く離れたご家族と話が出来るように努めている。また、施設のLINEを導入している。	広い玄関での面会のほかZOOM、LINE電話とリクエストに応じて方法を増やしています。また孫のスナップ写真に向かい始終話しかけている利用者の家族には更に追加の写真を願っています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性が合う方との会話が楽しめるように席を考えている。レクリエーションを通じて皆さんが楽しめるような関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去でご退去は、通夜等に参列させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常より、ご本人の言葉を大切に記録にしている。ご家族からの情報を大切に意向を把握している。	担当制が敷かれ、受け持ち意識が関わりを高めています。例えば「鏡がなく顔をみれない」との声をキャッチして簡易なものを設置したケースでは、本人の洗顔頻度が上がる効果を生んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	お客様担当を中心にご本人、ご家族より情報を随時取得し、職員間で周知してケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェックや日常生活の様子を記録している。申し送りや昼礼にて現状把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からは生活の意向を確認カンファレンスにて職員より意見をもらい計画書へ反映、サービス担当者会議にてご家族、関係者からも意見をいただき反映させている。	介護計画書の1表にある意向欄には本人の発語が場面毎に記載されており、「その人に寄り添う」姿勢が滲んでいます。また2表の担当者欄には多職種の関わりがあることも安心な点です。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や、医療連携家族記録に記載を行い職員間で情報共有している。また、定期的なモニタリングで見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接の老人保健施設と連携を図りご本人、ご家族の希望に応じられるように取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍でボランティア等受け入れは中止している。今年高校生のお掃除ボランティアは来訪していただけたので、利用者と掃除をした。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医と定期的な訪問診療にて連携を図っている。体調変化時等にも電話連絡等で指示を受けている。必要な場合にはご家族にも同席をお願いしている。	協力医は2箇所あり、4名と5名に分かれて診てもらっています。立ちあいは管理者と介護支援専門員でおこない、希望する家族には電話やLINEで診察内容を報告しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	隣接の老人保健施設の看護師に定期的に来訪してもらい健康管理と処置の相談等を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族と連携を図り、入院先への病院へ行き状態の把握、病院関係者と情報共有を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針及び看取り指針を説明している。入居時や機会があればご家族に意向を確認している。必要があれば主治医を含めて話をさせていただいている。看取りのご希望の際は同意書をかわしている。	此处一年の間では1名のお見送りがあり、現在3名が看取りに入っています。職員は介護のベテランばかりで、医師は24時間オンコール、隣りの施設には顔馴染みの看護師もあり、本件に係る心配点はありません。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル作成と周知を行っている。隣接の老人保健施設の看護師と連携して、緊急時の対応の確認を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災委員会を中心に、隣接の老人保健施設と連携をし、防災訓練を行っている。	年次計画に基づき、地震・火災と夜間・風水害の訓練を実施、11月には消防署指導の下、放水訓練もおこなっています。外に防災倉庫が1基在るほか、総計3箇所に備蓄品が保管されています。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会を通して、良いケア悪いケアを見える化して、職員間で情報共有をしている。	接遇研修を年1回は実施して、振り返りの機会としています。また「悪いケアから虐待につながった」との他施設の事例をもとに話し合うといった取組みもあり、適切なサービスにつなげています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、会話を大切にしてその中で希望を引き出している。その方に合わせた声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の昔からの習慣を大切にしている。趣味活動は、毎日ご本人と相談しながら楽しんでもらう。希望があれば臥床時間等も柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に着る服を選んでもらっている。整容、髪の毛のお手入れなど日頃から配慮を行っている。 訪問理容で、利用者が好みの髪型にしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所で調理を行っているが、盛り付けや味付け、野菜のカットなど一緒に行っている。月に1度は職員の手作りの食事企画にて、入居時の希望を取り入れている。	栄養を吟味した献立と食材が業者から届き、職員が手作りしています。味つけや盛り付けなどは利用者も加わっており、また梅干しづくりといった昔ながらの食文化を継承する取組みもあります。	栄養バランスについて業者任せな面もあるため、筋肉量のバランスを配慮するなど、体組成計の導入の検討も期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、外部の業者によりコントロールされている。毎日の摂取量や水分量を記録し体重の経過を見ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合った方法で口腔ケアを実施している。歯医者者を依頼されている方は、口腔内を見ていただき、指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中はトイレでの排泄を基本としている。ご本人の訴えや記録から見える排泄パターンを確認して支援を行っている。	「臭い+」「軟便」「細バナナ」「濃い排尿」と細かに申し送りに記録をとり、体調経過を把握しています。また、なるべく便座でとの態勢であり、ターミナルに入った人もトイレでできています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	手作りの寒天ゼリーを使用している。また、運動や軽体操なども取り入れている。便秘の方は主治医と相談の上内服等で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	月ごとに季節湯を取り入れている。また、スキンケアの入浴剤も導入してゆったりしていただけるよう配慮を行っている。入浴方法に関しては、カンファレンスで検討を行っている。	菖蒲湯といった時節風呂のほかに桜の湯、どくだみ湯、みかん湯と毎月変わり湯を提供しており、一つの行事として話材も増え、利用者の笑顔に結ばれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人からの訴えや、その日の体調に合わせて臥床時間等を設けている。夜間も湿度や室温、明かりには配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報、居宅療養管理指導を開示して情報共有を行っている。薬が変更になった場合は、その都度周知を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	過去の生活歴から嗜好品や楽しみを知り、裁縫や洗濯物、食器拭き等を職員と共にやっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出はほとんど実現できていないが、その代わりに散歩をする時間を設け、希望がある方は散歩にでかけている。	散歩の他に敷地外へ出ることはないものの、隣の介護老人保健施設にあるデイサービスでは頻繁に催事がある為、立ち寄らせてもらっています。コロナの心配もあって見学に留まるも、芋煮会や餅つきで風物詩を感じる事が出来ています。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に施設では金銭管理を行っていない。 企画等では、ご家族に許可をいただき、ご本人がお買い物できるように支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族にはいつでも電話やZOOMが出来る事をお伝えしている。その際は個室へ案内するなどプライベートな空間を意識している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月フロアのメインにある飾りつけを行って、季節を感じる事ができるようにしている。花が咲く時期には、フロアに花を飾っている。また、施設の周りに花を植えて四季を感じられる配慮をしている。	毎日の業務日誌には体温計やシャワーチェアに至るまで点検実施の記録があり、環境整備に努めていることが覗えます。また小鳥も舞い降りる庭園を一つの絵画のように眺めることができる大開口の窓も暮らしを彩る一つです。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話をしたいお客様が居た場合にはそばにお連れして距離を保ち会話を楽しんでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご家族の好きな様にレイアウトされている。基本的には使い慣れたものをお持ちいただいている。	車いすを使う人は7名いますが、居室スペースは広く、家具の配置換えの必要はありません。仏壇や使い慣れた筆筒の持ち込みは少なく、近年はプラスチック製のケース収納が増えています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子でも自走が出来るように、通路には物を置かず、スペースを確保している。		